

とだこやなぎいせき  
戸田小柳遺跡第3地点

厚木市No.137

- 調査期間** 2016年4月1日～継続中  
**所在地** 厚木市酒井・戸田  
**時代** 近世、中世、奈良・平安、古墳、弥生  
**調査原因** 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査  
**遺跡位置** 厚木市南東部、小田急小田原線本厚木駅から約3.6km南に位置し、相模川右岸の沖積微高地に立地する。



**主な調査成果**

戸田小柳遺跡は相模川右岸の沖積微高地（自然堤防）に立地しており、現地の標高は13～14mを測ります。平成24～26年にかけて第1地点・第2地点の調査を断続的に行い、平成27年度に報告書を刊行しました。前回の調査では弥生時代から近世にかけて、遺構と遺物が見つかっています。主として見つかっている遺構は溝または流路です。溝は人為的に構築されたもの、流路は自然に形成されたものと考えています。ただし、自然に形成された流路の中からも遺物や、杭列といった施設が見つかっており、当時の人々が自然を利用したと考えられる痕跡が捉えられています。

遺物として注目されるのは、双頭龍文鏡（位至三公鏡）です。この鏡は青銅製で、中国の後漢の終わりごろから三国、西晋の時期（2世紀から3世紀初頭）の時期に作られたものです。全国での出土例は破片資料などの可能性例を含めて、約40例あります。ただし、そのほとんどは西日本の墳丘墓や古墳といったお墓からの出土であり、東日本での出土は数例しかありません。更に、お墓以外から出土している例はほとんどなく、出土状況についても希少な事例となっています。今回の調査は、第3地点の調査となります。現在は表土掘削が終了し、中世・近世の遺構と遺物を確認するための包含層掘削（トレンチ調査）を実施しています。包含層掘削を行っていく中で、中世または近世に帰属する溝が数条確認されました。前回調査で見つかった溝の継続部分となる可能性があるものも見つかっています。



溝状遺構（中・近世）



双頭龍文鏡（位至三公鏡）